

## 令和4年2月八戸市教育委員会定例会会議録

開催日時 令和4年2月17日(木) 午後1時30分

場 所 市庁本館3階 議会第3委員会室

出席者	教育長	伊藤	博章
	教育委員	築瀬	眞知雄
	教育委員	油川	育子
	教育委員	小瀬川	喜井
	教育委員	福井	武久

事務局出席職員	教育部長	石亀	純悦
	教育部次長兼教育総務課長	中里	充孝
	教育部次長	大館	秀光
	学校教育課長	熊谷	誠二
	教育指導課長	南舘	義孝
	社会教育課長	三浦	幸治
	是川縄文館副館長	松橋	広美
	総合教育センター所長	河村	雅庸
	こども支援センター所長	大坂	吉弘
	図書館長	田茂	隆一
	博物館長	小保内	裕之

## 開 会

(伊藤教育長)

定刻となりましたので、令和4年2月教育委員会定例会を開会します。

本日の議事録署名は、小瀬川委員を指定します。

それでは、はじめに私から、主な会議・行事等について説明いたします。

## 主な会議・行事等

(伊藤教育長 資料に基づき説明)

これより議事に入ります。本日提出されております議案を審議いたします。

はじめに、議案第2号「教育財産の用途廃止について」事務局からの説明をお願いします。

## 議案第2号 教育財産の用途廃止について

(中里次長兼教育総務課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

それでは、議案第2号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

御異議がありませんので、議案第2号を原案のとおり決定いたします。

以上で、議案の審議は終わりました。

次に報告事項にまいります。はじめに「マイブック推進事業について」事務局からの説明をお願いします。

## 【マイブック推進事業について】

(南館教育指導課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ありがとうございました。マイブック推進事業と関連して「本市における児童生徒の読書活動の状況」についても御説明をいただきました。ただいまの報告につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いします。

(築瀬委員)

いつもマイブック推進事業については感想等を述べさせていただいているので、多少の意見も交えた感

想を少しお話ししたいと思います。

事務局の皆さんにおかれましては、これまでの対応等大変ありがとうございました。そして、お疲れ様です。それから、特に今回のアンケートでも出ているのですが、各学校のアンケートの書き方とかを見てみると、真摯な姿勢、熱意ある取組の様子が伺えて、学校にも感謝したいなという気持ちでいます。一言で言えば、今後とも成果と課題を検討して、子どもたちにとって何が一番良いのかということを中心に基本に据えることが大事かなと思っています。今回も丁寧な資料、ありがとうございました。

三つほど、まとめて述べさせてもらいます。一点目ですけれども、表紙を入れて3枚目にある「出張ブックトークの実施」のところですね。各機関との連携についてはいつも触れているのですが、やはりこの事業を推進するには、様々な機関の人々と連携して進めるということがカギになると思っていたので、ここに述べられているようなことをこれからもやっていってほしいなという気持ちでいます。この事業には「本に親しむ」という大きな目的があるのですが、「本に親しむ」というのは簡単なようでも、大きな意味があって、広い意味があって、深い意味があるので、そういった目的を達成するためには各機関との連携は大変重要なことですので、これからも大事にしてほしいと思います。これまで8年間の歴史を振り返ってみても、この連携というのがどんどん進んで幅広くなって、様々な人、様々な機関と連携したことによって、こういった事業が進んでいると思いますので、これからも取り組んでほしいなと思います。

それから、事業の狙いには子どもが中心にいますが、その狙いを達成するためには保護者を取り込むということが大事だと思っているので、保護者向けの取組も非常に良くなってきたなと思います。この資料では触れていませんが、八戸ブックセンターのWebサイト上でも「保護者の方向けのおすすめコメント」を作成していましたし、実際に目に見える効果があったのかと言われると難しいのですが、すぐに効果、即効性があるものがないわけではありませぬので、「教育」という長い目で見て、この地道な取組がいつか実を結んでいくという考えが大切だと思いますので、今後も期待しています。

二点目ですけれども、注文袋の件ですね。これについては、他のアンケート結果と違って賛否両論ある取組かなと思います。私もやはりその通りだと思っています、これまでの定例会の中でも触れてきたのですが、最初から全員に配布することにはやや慎重であるべきだという意見を持っているのです。そういった危惧が、このアンケートにも出ている。懸念される問題としては、この趣旨を取り違えて注文袋を使っている節があるのではないか、注文袋で注文すればいいのだと解釈しているきらいがあるのではないかと思うのです。それは説明不足ということもあるかもしれませんが、保護者アンケートにもあるように、お互いの誤解、解釈不足もあると思うので、そういったところはこれから取り組んでいく必要があると思います。7割の学校は全員配布に肯定的ですが、残り3割の学校の意見についても大事にしてほしいなと思うのですよ。学校アンケートでは、どうしても各校が遠慮気味に回答する傾向がありますので、そういったところも配慮して課題を考えていく必要があると思うのです。

アンケートの中では「注文袋の配布はコロナ禍の中で効果的である」という意見も見られますが、私はこれも注意しなきゃならないと思っています。いくらコロナ禍の中であっても、大きな目的をきちんと押さえて、そのことを達成するような努力というのは必要だと思うので、その方法論を間違えると大きな目的からそれてしまう部分がありそうな気がするのです。コロナ禍の中で確かに効果があったとは思いますが

けれども、その方法がいいかどうかは考えてみる必要があるなと思っています。それは学校のアンケートの中にもありますし、保護者アンケートの中にもありますので、そこはぜひ検討してもらいたいなど。注文袋そのものが悪いというのではなくて、いつの時期に、どれだけの対象に、といったことは慎重に検討すべきだなと思っています。

もう一つ気になったのが「担当教員の負担が増えた」という言葉だったのですよ。学校アンケートでは遠慮気味に書いていますけれど、良い取組ではあるものの先生方の負担が増加して大変になることは、やはり避けたいものだなと思っています。

長くなりますが最後です。最後の方にある学校アンケートの「事業全般について」ですけれども、昨年度は、本当にこの保護者の声に感激したことがあって、私も定例会の場でも発言したことがありました。今年も保護者の率直な声については大事にしてほしいと思います。一言で言えば、保護者は継続を望んでいるということですよね。学校もそうですし。先日、市の当初予算案の発表がありましたけれども、今後も子どもたちのためにこの事業が継続していけるよう、教育委員会としてもこの事業の意義について強く訴えていってほしいなと思っています。

いずれにしても、細かい部分について色々言ってきましたけれども、私の期待の表れだと解釈していただければありがたいなと思っています。本当に様々な改善、取組、評価で御苦労されていることに大変感謝しております。ありがとうございます。

(伊藤教育長)

そのほか意見ございませんか。

(福井委員)

私からは質問と意見になります。「本」というのは、その人の人生を変えるような出会いもあるかもしれませんが非常に大事なことだと思います。今、築瀬委員が言ったように、これまで長く続けてこられて、大分改善して、いろいろと良い方向に進んでいるようなので、そのまま続けていただきたいと思っています。

ブックリストですかね。私も気になって5年分出してみても、今までどういう本があるのかなと見ていて少し気付いたのですが、最初の頃は1年生・2年生・3年生・4年生などと対象学年が書かれていて、今は書いていないのですけれども、それは何か理由があったのでしょうか。

(南館教育指導課長)

福井委員さんがおっしゃったように、1・2年生向けの本ではあるのですが、3・4年生の子どもが読んでだめなのかといった意見もありましたので、自由に読んでもらいたいということから学年は外しております。

(福井委員)

もう一点は、今までの本を見てみると、かなり興味深い科学の世界のこと、身の周りのこと、あるいは地方の歴史についてとか、小さい子どもにとってもいろんな方面への興味・関心が湧くような本がいっぱ

いあるのですけれども、これはバックナンバーというか、前の年とか、さらにその前の年から継続して推薦されて、ずっと掲載しているみたいなことはないのですか。

(南館教育指導課長)

このブックリストについては、高等専門学校の教授だったり、ブックセンターの専門員だったり毎年複数回集まって、今年はどうな良質な本を選ぼうかということで、毎年チェンジしています。ただ、以前にも築瀬先生からお話がありましたが、クーポンを1枚残してしまう子のために、できる限り1枚500円以内で買える本も掲載するようにしているのですが、なかなか500円で買える本がないものですから、それについては継続的に載せております。基本的には毎年良い本を推薦してもらっている形になっています。

(福井委員)

素晴らしい内容になっているので、これを私も揃えていきたいなと思っているのですが、ぜひ良い本を紹介していただければと思っております。これは保護者にとっても非常に助かるし勉強になるような内容だと思います。

あと最後に、意見といいますか要望といいますか。今日いただいた当日配付資料ですけれども、2ページのところに「平日1日当たりの読書時間が30分以上の児童生徒の推移」と書いているのですが、赤い線が八戸市で、全国平均よりも4%高くなっていて、この数字がいいかどうかというのは人によるかもしれませんが、ただ中学校のほうを比較してみるとそうでもないような気がするのですよ。平成27年と令和3年を比べても、これはどうなのかなと思うので、要望になりますけれども、せっかくこういう良い事業をやっていて、ある程度の結果も見えている訳ですので、その小学校でやった事業が中学校に行ってもどうにかして活かされてほしいなと思っています。中学校でもいろいろと考えているとは思いますが、ぜひそちらの強化といいますか、何かやっていただければ、つながっていくのではないかなと思っております。ありがとうございました。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。そのほかございませんか。

(小瀬川委員)

感想を述べさせていただきたいと思います。実施後のアンケート結果の集計、分析、考察、また注文袋の導入等を毎年更新してバージョンアップしていることに、まずは心から感謝をしています。アンケート結果を見ましても、保護者の皆様からそういったお気持ちが伝わってくるものが大変多くて、改めて素晴らしい事業だなと思っています。

何点か申し上げますが、まずこの報告書を読みまして、数字ばかりにとらわれてしまうのはだめだなと思いつつも、やはり11ページで強烈に印象に残った部分がありました。右下の最後の丸で「クーポンを全く使用しなかった児童に変化が見られなかったことから、家庭事情を踏まえた個別の対応等を学校と連携して考えていく必要がある。」というところですが、そこから透けて見える家庭と児童の様子であったり、何か問題がある場合に関して、少しでも解決のきっかけにこの事業がなっていけば、なおいいなと思ったところでした。

もう一点。6月定例会の時にも築瀬委員が発言しておりましたが、本屋さんでクーポンを使えば2冊買えるものが、注文袋では1冊しか買うことができないということに触れられていました。注文袋に「ミミズ」という本が載っていたのですが、その本を例にしますと、その本は1冊1,650円する本になっています。注文袋であればクーポンが4枚必要になって、2,000円分のクーポンになるわけですね。350円分は使えないというか、還元されないことになるので、そこは非常に大きな金額になるのかなと思います。この注文袋の狙いとしては、コロナ禍で自由に外出ができない難しい状況でも本が買えたりということも、もちろんあると思うのですが、やはり子どもたちのために進めている事業なので、そういったところは少しでも改善されていけばいいなと思いました。

コロナ禍で規制があって、なかなか自由に買い物に行ったり、学校の休み時間などに体を動かしてというのが難しい中で、クーポンで買った本を子どもたちが見せ合ったり、意見交換をしたり、また家庭内での会話にもつながっているというようなこともアンケートに書かれていたので、そういった豊かな時間が持てているということは、このクーポンのとても良い効果だなと思いました。また、6年間を通じて本を集めると、本棚に本がずらっと並んでいくのを見るだけでも、きっと子どもたちは幸せな気持ちになると思いますし、ブッククーポンが終わってからも本を読む習慣がその児童に身につくという、目に見えない財産の一つになっていくと思うので、ぜひ継続していけるように今後ともよろしく願いいたします。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。そのほかございませんか。

[質疑なし]

次に「令和3年度学校教育実践功労表彰について」事務局からの説明をお願いします。

### **【令和3年度学校教育実践功労表彰について】**

(河村総合教育センター所長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いします。

[質疑なし]

そのほか、事務局からの報告事項はありますか。

### **【天然記念物「ウミネコ繁殖地」指定100周年記念セレモニーの実施について】**

(三浦社会教育課長 当日配付資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いします。

[質疑なし]

事務局からは以上のようなようです。

次に「その他」ですが、委員の皆さんからなにかございましたか。

(油川委員)

私からは前回の定例会におきましても申し述べましたが、先週火曜日2月8日に開催されました、こども支援センター主催の幼稚園・保育園・認定こども園の教職員を対象としたオンライン説明会について申し上げたいと思います。たくさんの資料を交えての説明会でありましたが、その御準備、そしてそれぞれの業務内容について大変詳しいお話を頂戴することができまして、ありがとうございました。受講した感想を三点ほど述べさせていただきたいと思います。

まず一点なのですが、三つの課がそれぞれの目的に応じ、手厚いサービスを提供しているということがとてもよく分かりました。

二点目です。安全・安心に子育てできるような社会の仕組み作りが、ハード面のみならず、ソフト面においても構築されたというふうなことを感じました。

それから三点目です。出産から幼児、児童、生徒に至るまで、支援の手がずっとつながっているということを改めて理解することができました。それと同時に、つなげるためには幼児教育に携わっている者が5W1Hのタイミングを逃してはいけないなということを感じました。5W1Hというのは「いつ」「どこで」「なにを」「なぜ」「どのように」つなげていかなければならないのかということ、明確に理解することができました。幼児教育に携わる者の果たすべき重責を強く感じるほど、とても充実した内容であったかと思えます。今回はオンラインでの開催でしたけれども、司会の方、それから説明をしてくださった皆さん、そして最後に締めてくださった日向端先生等、関わってくださった方々の力強い使命感というものが画面を通して伝わってきたということに関しても、とても良かったなと感じました。

最後に一つお願いですが、前回築瀬委員もおっしゃっていましたが、これからもこのような説明会を進めていただけたらなと思います。可能でしたら、個人情報を守りながら様々な事例の紹介を通して、成果と課題について伺える機会があると、さらに私どもの理解が深められるのかなと思いました。大変お忙しい中、このような説明会を主催してくださいましたこと、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(大坂こども支援センター所長)

説明会に参加していただきましてありがとうございました。申し込まれた幼稚園・保育園・認定こども園もトータルで70を超える、たくさんの方に参加していただいていたことがありがたいなと思っておりました。当日は、こども支援センターの業務内容、それから教育支援の関係、あとこども家庭相談室からは、こども家庭相談室の業務、健康づくり推進課は、母子保健事業について説明いたしました。それぞれの業務もそうなのですが、総合保健センターの中での連携であったり、いろいろと対応しているということを知っていただければなということと、何よりもこども支援センターに今年度配置されました幼児教育アドバイザーを来年度以降どう活用していくか、そういう面につきましても周知していかなければならないなと思っておりましたので、その機会の一つとしてやれたのかなと思っておりました。この結果等については、その内容がまとまり次第、早い時期に報告させていただきたいと思っていました。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。そのほか委員の皆さんから何かございませんか。

[なし]

## 閉 会

(伊藤教育長)

これをもって令和4年2月の教育委員会を終了いたします。お疲れ様でした。

(午後2時30分閉会)